

上 尾 市

実 施 教 室 数	6 教室	対 象 学 校	全小学校
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	4 日
コーディネーター数	4 人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	0 人

教室紹介

教 室 名	大谷公民館子ども教室	活 動 場 所	大谷公民館ほか
参 加 対 象	小学生と保護者	参 加 者 数 (1 日 平 均)	20 人
活 動 内 容	公民館で体験しようというテーマで学校の先生以外の大人の指導により様々な体験的な学習をしている。 ①着付け教室～きものはじめの一步 ゆかた～ ②工作教室～子どもアメリカン3D教室～ ③染色教室～親子で体験！楽しい草木染～ ④囲碁教室～子ども囲碁教室～		
連 携 団 体	・山野流着装奥伝 ・公民館草木染サークル ・上尾市民囲碁連盟 ほか		
活動の成果	①ゆかたの着付けに加え、着物での所作、正座してのお辞儀など、和装での立ち居振る舞いも学ぶことができた。 ②丁寧に細かく一人一人に目を向けての指導であったので全員が素敵な作品を仕上げる事ができた。 ③小学生・保護者とも、自らの手で染色を施す工程を楽しみながら草木染の体験ができた。植物や虫等の自然に存在するものから作られる染料ということで、元の材料や色見本、色が変わる過程等を興味深く観察していた。そ ④囲碁は最低3手先まで読んでから打つため、様々な戦法を習得した上で、相手の戦法までを読む必要があることから、参加者は囲碁の奥深さや面白さも体験することができた。		



【ゆかた】

着付けの先生に教わりました



【草木染】

親子で体験！楽しい草木染

藤 市

実施教室数	7教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	3～6年	平均開催日数	21日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	107人

教室紹介

教室名	西小ふれあい寺子屋-NFT- (西小学校区わらび学校土曜塾)	活動場所	図書室
参加対象	3～6年	参加者数 (1日平均)	18人
活動内容	・行政・家庭・地域が連携協力し、子どもを育む環境づくりを推進する。児童の自主的な学習（宿題・課題・ものづくり）をサポートし、子どもたちに集中して学ぶ大切さや楽しさを教え、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図っている。 ・元教員の方が全体を統括する塾長（コーディネーター）を担っている。宿題やドリルのわからない所を教える学習アドバイザーには元教員や大学生（卒業生）が務め、出入り口の管理等を行う安全管理員（見守り役）は元PTAの方から協力を得ている。 ・リース作りや絵手紙教室などの体験教室と通じて、楽しみながら新しい発見の機会を創出している。		
連携団体	地域の方		
活動の成果	【参加者の声】 『みんなと楽しく勉強し、わからない所は、教え合えたので友達と仲が深まり楽しく勉強ができた。用意されたプリントを解いていくうちに学校でやる算数の問題を解く時間が速くなっていった嬉しかった。宿題に出されている「読書一冊」も読んでいくうちに本を読むのが楽しくなり今では、120冊も読んでいて土曜塾のおかげだと嬉しくなりました。』 【保護者の声】 土曜塾に参加するようになってから、やる気スイッチが入ったようだ。毎日宿題以外の勉強もやるようになった。次回も参加したいようだ。 元教員の方が塾長や学習アドバイザーを務めているため、学習面でのサポートはもちろんのこと、学校との連絡調整等が大変スムーズである。通いながっている学校を会場にしているので、参加者も安心して学ぶことができる環境にあるといえる。		



【個々に応じた丁寧な学習指導】
先生が机をまわり、参加者の様子を見守ります。



【お楽しみ♪体験教室】
リース作りを体験しました♪

朝霞市

実施教室数	6教室	対象学校	小学校6校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	53人

教室紹介

教 室 名	おもしろ工作教室		活 動 場 所	教室、体育館
参 加 対 象	全学年		参 加 者 数 (1日平均)	25人
活 動 内 容	第 1 回	メリーゴーランド、ミニ「ハサミの使い方①」		
	第 2 回	牛乳パック工作、ミニ「ひもの結び方」、ミニ「キリの使い方」		
	第 3 回	おもしろ手品づくり		
	第 4 回	いろいろなトンボ（体育館）		
	第 5 回	八重のかざぐるま、ミニ「ハサミの使い方②」		
	第 6 回	ダンボールでくつ職人、ミニ「くつひもの通し方」		
	第 7 回	割り箸ピストル、びっくりカメラ		
	第 8 回	キラキラぶんぶんゴマ、紙皿UFO		
	第 9 回	びっくり、どっきり、紙細工		
	第10回	バルーン・アート		
	第11回	紙飛行機、いろいろなトンボ（体育館）		
	第12回	ホバークラフト		
連 携 団 体	NPO法人 朝霞ぐらんぱの会			
活動の成果	NPO法人朝霞ぐらんぱの会に協力してもらい、工作指導をしてもらった。ぐらんぱの会のみなさんは、参加対象の小学生から見ると自分たちの祖父母世代の方々であり、異世代交流の場にもなった。 参加者はハサミをはじめ、様々な工作文具の正しい使い方を指導してもらい、扱いが上手になった。また、教室で作成したものを改めて家庭でも作って見せて喜ばれたり、作品で家族と一緒に遊んで楽しかったという参加者も多く、親子のふれ合いが増えたと保護者からも好評を得ることができた。			



【ダンボールでくつ職人】
履くこともできてみんな大喜びです



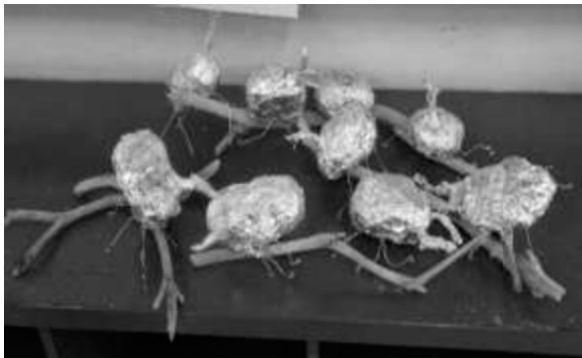
【ハサミの使い方】
細かいところも切れるようになりました

新 座 市

実 施 教 室 数	17教室	対 象 学 校	全小学校
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	12日
コーディネーター数	6人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	259人

教室紹介

教 室 名	新座っ子ばわーあつぷくらぶ 「わくわくアート」	活 動 場 所	のびのびルーム
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数 (1日平均)	15人
活 動 内 容	1回目 オリエンテーション・ナスの量感画（オイルパステル・コラージュ） 2回目 あじさいの花（スタンプ・貼り絵） 3回目 カブトムシの立体工作（アルミホイル・針金） 4回目 ピーマンの墨絵（墨・オイルパステル） 5回目 フォルメンパズル（オイルパステル・コラージュ） 6回目 りんごの量感画（オイルパステル・パウダー・コラージュ） 7回目 落ち葉のコラージュ（フロッタージュ・アクリル絵の具） 8回目 カボチャの立体工作（染めた和紙） 9回目 サツマイモの量感画（オイルパステル・パウダー・コラージュ） 10回目 金色屏風絵（金色工作紙・和紙・オイルパステル） 11回目 玉ねぎのコラージュ（トレーシングペーパー・絵の具） 12回目 色々散歩道（スチレンボード・オイルパステル） 13回目 動く形（色紙・墨・オイルパステル）		
連 携 団 体	日本臨床美術協会（NP0 法人）		
活動の成果	身近にあるものをモチーフに、季節を感じながらアートを楽しむ方法を学んだ。 例えば、りんごを用いてりんごの味や香りから感じる色を選んで作品を作った。 児童が選んだ色は、感覚的なものなので全て正解であり、本人を肯定することにもなる。 また「落ち葉のコラージュ」では、野火止小学校の校庭に落ちている葉っぱを拾ってきて用い、身近なところにある自然に目を向けるようにした。 制作の後には毎回鑑賞会を行い、一人ずつ他の児童の作品について「良いところ」を発言してもらった。自分だけでなく、他の児童の作品も意識して観ることができるようになり、また褒めてもらうことで自己肯定感が高まり、心の成長や次の作品への意欲に繋がったようである。		



【カブトムシの立体工作】

カブトムシの足の生え方も観察し、新聞紙・針金・アルミホイルで制作。



【サツマイモの量感画】

本物のサツマイモの重さ・匂い・色を観察し、味の色・匂いの色等を重ねて制作。

北本市

実施教室数	12教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
コーディネーター数	12人	ボランティア数	229人

教室紹介

教室名	中学校土曜補習事業	活動場所	教室
参加対象	3学年	参加者数 (1日平均)	33人
活動内容	【活動の概要】 ○日頃の学習への取組状況、各学力・学習状況調査（全国、県）から明らかになった課題を克服するとともに、生徒の個別のニーズに応じた基礎学力向上を目指し、5教科（国数英理社）の学習活動を実施した。 ○実施日・回数 令和元年9月～12月 1日2講座×9日間 全18講座 【活動の内容】 ○国語：基礎の学習、作文指導 ○数学：計算、図形、関数の問題演習 ○英語：文法、英作文 ○理科：化学・物理・生物・地学領域問題演習 ○社会：地理・歴史・公民的分野問題演習 【工夫した点・ポイント】 ○補習の案内文書を配付するだけでなく、保護者会等で直接保護者に趣旨や内容を説明し、保護者の理解を得て、生徒の参加意欲を喚起した。 ○定期テスト前や長期休業中に行う補習事業（全学年）との関連性ももたせ、一貫性のある補習事業とし、3年間を見通した系統性のある指導計画を立てた。 ○3学年対象で実施教科も限られているが、他学年・他教科の教員も指導に加わり、学校全体で組織的に取り組んだ。 ○全体での学習、個別の課題に応じた問題演習など、生徒の実態や課題に応じて各教科や学習単元で様々な学習形態をとり、効果的に学習活動に取り組めるような手立てを工夫した。		
連携団体	なし		
活動の成果	○学校や学年の課題にそった基礎学力の向上に焦点をあてた学習活動を実践したことで、各学力・学習状況調査から明らかになる課題の克服における1つの手立てとなった。 ○保護者の理解や協力を得ることにより、生徒が主体的に補習事業に参加し、個別のニーズに応えることができた。 ○教職員の負担軽減も図りながら本事業のさらなる充実に資するため、地域の教育力を生かす手立ても模索していくことが課題である。		



【土曜補習の様子】
個別指導



【土曜補習の様子】
全体指導

所 沢 市

実 施 教 室 数	1 教室	対 象 学 校	1 小学校
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	2 0 日
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	5 7 人

教室紹介

教 室 名	所沢市放課後支援事業 所沢小学校 ほうかごところ	活 動 場 所	体育館を中心に実施
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数 (1 日平均)	6 人
活 動 内 容	○土曜日活動の様子 保護者の要望により、平成 1 8 年度より土曜日の活動を実施している。活動時間は学校開放活動が使用していない午前中（9 時～1 2 時）、体育館を主な活動場所としている。長期休業中及び 1 月～3 月は土曜日の活動を休止している。 ○特色ある活動の紹介 ・体育館を活用した活動 土曜日は参加人数が少ないが、活動場所も限られているので、スタッフの目が行き届いた見守りができている。子供たちは、異年齢と積極的に交流し、思いきり体を動かしている。		
連 携 団 体	秋草学園短期大学地域保育科の 1 年生（延べ 4 2 名のボランティア）		
活動の成果	土曜日の活動では、参加人数は少ないものの、子供たちが積極的に関わり合い、異年齢での遊びを通じた交流を行っている。活動の中で帰宅時間・約束した時間について年令なりの意識が生まれ、子供たちの心や体の成長に役立っている活動となっている。 開設から 1 7 年が経ち、卒業生が大学生になってスタッフに入ったり、中学生・高校生がボランティアスタッフとして手伝いに来てくれたりするようになっている。「地域の子供は地域で育てる」という地域の教育力を生かした、「地域立」の考えをもとにした“ほうかごところ”を実施することができている。 土曜日の教育支援については、令和元年度で終了する。		

第5「放課後子供教室推進事業」の実践事例（実施市町の取組）



【七夕飾り】
みんなで願いを込めた飾り付け



【遊び道具貸出カード】
一目でわかる利用状況

東松山市

実施教室数	2教室	対象学校	小学校2校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	3人	ボランティア数	約10人

教室紹介

教室名	土曜日イングリッシュ寺子屋	活動場所	桜山小学校
参加対象	小学校3～6年	参加者数 (1日平均)	35人
活動内容	コーディネーターを中心に、当日の活動内容を確認し、ALT派遣会社が準備した教材を使って、歌やレク、ゲームを取り入れながら英語活動を行う。 大学生や地域のボランティアが、活動の支援をしたり、声をかけたりしながら楽しく活動している。 【学習の流れ】 9:30～10:15 英語活動① 10:15～10:30 休み時間 10:30～11:15 英語活動② 11:15～11:25 片づけ 11:25～11:30 連絡 11:30 終了		
連携団体	株式会社ボーダーリンク（ALT派遣会社）		
活動の成果	○児童はボランティアと交流したり支援を受けたりしながら、楽しく英語活動を行っている。ALTのネイティブな発音に慣れ親しみ、英語をより身近に感じることで、英語への興味や関心が高まり、「話せるようになりたい。」「聞き取れるようになりたい。」との思いをもって参加している。 ○コーディネーターやボランティアの方と児童との信頼関係が深まり、児童が安心して活動できる環境が構築されている。 ○小・中一貫教育の重点の一つである「英語に強い子供を育てる」ことに大きく貢献している。 ○学習指導要領の全面実施に向けて、「聞く・話す（やり取り・発表）・読む・書く」の4技能5領域を体験することで、英語を楽しく学ぶ土台づくりの場となっている。		



【活動の様子】

地域のボランティアの方とも英語で交流



【土曜日寺子屋開講式】

教育長による挨拶

ふじみ野市

実施教室数	2教室	対象学校	全中学校
主な対象学年	中学校3年	平均開催日数	16日
コーディネーター数	4人	ボランティア数	0人

教室紹介

教室名	ふじみ野市寺子屋	活動場所	市内公民館
参加対象	中学校3年	参加者数 (1日平均)	14人
活動内容	○国語、数学、英語を中心とした学習指導を実施した。 ○参加した生徒の自主学習を基本とし、生徒からの質問を受け個別に対応することで、その生徒に合わせた学習支援を行った。 ○夏休みの開催（11日間）に続けて、9月以降も月1回、土曜日に学校や家庭以外の環境で学習する機会を提供した。 ○中学校免許を有する講師を各会場2名ずつ配置し、学習支援を行った。 ○市内小中学校に勤務しているALTによる英語の学習も行った。		
連携団体	なし		
活動の成果	○参加者を中学校3年生に絞ったため、参加した生徒は、受験も意識して集中して学習に取り組んでいた。 ○講師から自分の専門とする教科を中心に丁寧に個別指導を受けることで、苦手分野の克服にもつながった。 ○学校や家庭以外に学習する場を提供することで、他校の生徒からも刺激を受け自身の学習に生かしている様子も見受けられた。		



【集中して学習に取り組む様子】
自ら課題を見つけ、静かな環境の中で取り組むことで学習も進みます。



【個に応じた学習支援の様子】
苦手分野については、その都度講師から丁寧な指導を受けています。